

公益目的事業 1（平和推進事業）

被爆体験継承普及事業

1 修学旅行生への被爆体験講話等

平和学習のために来広した修学旅行生を始めとする国内外からの来訪者等を対象に、被爆体験講話を行うとともに、原爆記録ビデオ等を上映しました。

また、夏休み期間中には、事前予約不要かつ無料の講話を開催しました。



被爆体験講話の様子

（1）被爆体験講話実施状況

（単位：人）

区 分	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
小 学 校	(544) 36,886	(683) 47,087	(696) 50,455
中 学 校	(399) 37,390	(311) 32,695	(237) 24,892
高等学校	(249) 27,692	(148) 19,055	(145) 20,639
そ の 他	(272) 8,045	(703) 14,626	(788) 17,799
計	(1,464) 110,013	(1,845) 113,463	(1,866) 113,785

（ ）内は件数

（2）申込方法

① 受 付 希望日の1年前の当日から受け付けます。オンライン予約システムでご予約ください。

● 被爆体験講話等オンライン予約システム

URL : <https://www.hpmm-testimony.jp/>

② 問合せ先 (公財)広島平和文化センター 平和文化企画課

〒730-0811 広島市中区中島町1番2号

受付専用電話 : (082) 541 - 5544

受付時間 : 9時～17時

[休館日(12月30日及び31日ほか)は、受け付けておりません。]

③ 会 場 ● 広島平和記念資料館東館

メモリアルホール、会議室(1)、会議室(2)

- 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館
研修室 1・2、研修室 3
- ※ 会場の定員については、オンライン予約システムでご確認ください。

④ 実施時間

- 次の時間帯（60 分間）からお選びください。
9:30～10:30、11:00～12:00、13:00～14:00、14:30～15:30、
16:00～17:00、17:00～20:00の間のいずれか 60 分間
- ※ ③の会場での受講は 17 時までです。下線を引いた時間帯は、他の会場を確保された場合のみです。

⑤ 受講費用

なし
令和 6 年（2024 年）4 月 1 日の講話から、本財団が委嘱する被爆体験証言者が広島市内で実施する被爆体験講話の講師謝礼金^(※)が無料（本財団が負担）となりました。

なお、被爆体験伝承講話・家族伝承講話の講師謝礼金については、これまでと変更なく、無料（本財団が負担）です。

(※) 申込者（聴講者）が手配する会場への派遣も含みます（謝礼金以外の会場費などの運営費用はご負担ください）。なお、会場のみ申込で、当館以外の団体に講師を依頼する場合は、謝礼金や交通費などについて、直接当該団体とのやりとりをお願いします。

広島市外での実施については国立広島原爆死没者追悼平和祈念館にお問い合わせください。

〔国立広島原爆死没者追悼平和祈念館〕

問合せ先電話（082）207－1202

被爆体験伝承者等派遣事業ホームページ

<https://www.hiro-tsuitokenkan.go.jp/project/successors/>

（3）被爆体験証言者（本財団委嘱）名簿

令和 7 年 7 月 3 日現在・50 音順 敬称略

氏 名	被爆時の状況
あまの こうきち 天野 幸吉	6 歳の時、爆心地から 1.6km 離れた自宅で、家族と朝食を食べていたときに被爆。
あらい しゅんいちろう 新井 俊一郎	中学 1 年生であった 13 歳の時、食糧増産で農村支援出動先の東広島市から広島へ向かう途中、原爆炸裂の閃光を見て広島市内へ入った。
いいたく にひこ 飯田 國彦	3 歳の時、爆心地から 900m 離れた母の実家で、母に呼ばれて家の中に入った時に被爆。
いしばし きくこ 石橋 紀久子	5 歳の時、爆心地から 2.2km 離れた自宅の座敷にいたときに被爆。
いとう まさお 伊藤 正雄	4 歳半の時、爆心地から 3.2km 離れた自宅前の道路で、三輪車に乗って遊んでいるときに被爆。

うさみ せつこ 宇佐美 節子	3歳の時、爆心地から4.1km離れた自宅の縁側で遊んでいるときに被爆。
おおた かねじ 大田 金次	幼稚園児であった5歳の時、爆心地から800mの自宅で、幼稚園に行くため玄関を出たときに被爆。
おぐら けいこ 小倉 桂子	小学校2年生であった8歳の時、爆心地から2.4km離れた自宅近くで被爆。被災し、避難してきた被爆者たちの悲惨な光景を目の当たりにした。
かさおか さだえ 笠岡 貞江	高等女学校1年生であった12歳の時、爆心地から3.5km離れた自宅で被爆。
かじもと よしこ 梶本 淑子	高等女学校3年生であった14歳の時、爆心地から2.3km離れた動員先の工場で、飛行機のプロペラ部品を作る作業中に被爆。
かじや ふみあき 梶矢 文昭	小学校1年生であった6歳の時、爆心地から1.8kmの分散授業所で朝の掃除をしているときに被爆。
きしだ ひろこ 岸田 弘子	6歳の時、爆心地から1.5km離れた自宅で、トイレの中で被爆。
きりあけ ちえこ 切明 千枝子	高校1年生の15歳の時、病院に向かう途中、爆心地から2.5km離れたところで被爆。
くわばら かずゆき 桑原 一之	国民学校2年生であった7歳の時、爆心地から約2km離れた、分散授業所となっていた寺の本堂で朝の掃除をしていたときに被爆。
こうの きよみ 河野 キヨ美	女学校2年生であった14歳の時、爆心地から35km離れた郊外の自宅で広島市への原爆投下を知る。翌日、2人の姉を探しに市内に入った。
こんどう やすこ 近藤 康子	4歳の時、爆心地から3.5km離れた川の中で、友達と遊んでいたときに被爆。
さいき みきお 才木 幹夫	13歳の時、爆心地から2.2km離れた自宅で、外出するため靴を履こうとしたときに被爆。
さこだ いさお 迫田 勲	7歳の時、爆心地から北西に約19km離れた山中で、屋外での作業後に放射性物質を含んだ「黒い雨」に打たれた。その後、2022年4月に被爆者として認定された。
さど いくこ 佐渡 郁子	小学2年生であった7歳の時、爆心地から870m離れた祖母の家の庭で、妹と砂遊びをしていたときに被爆。
たきぐち ひでたか 瀧口 秀隆	4歳の時、爆心地より1.8kmの自宅で朝食後、外にいたら飛行機の音がしたため急いで帰り 玄関の引戸を閉めようとした時に被爆。
てらまえ たえこ 寺前 妙子	高等女学校3年生であった15歳の時、爆心地から550m離れた動員先の広島中央電話局で、2回目の作業にかかるため廊下に整列していた時に被爆。
ないとう しんご 内藤 慎吾	6歳の時、爆心地から1.7km離れた自宅で、庭にある防空壕 <small>べんけいかに</small> の入口で弁慶蟹を捕まえようとしやがんだときに被爆。
パク ナムジュ 朴 南珠	女学校1年生であった12歳の時、妹と弟を疎開先まで送っていくために乗った路面電車が、爆心地から1.9km離れたところにいたときに被爆。
はらだ ひろし 原田 浩	幼稚園児であった6歳の時、爆心地から2km離れた広島駅のプラットホームで列車を待っていたときに被爆。
ひろなか まさき 廣中 正樹	5歳の時、爆心地から3.5km離れた自宅前の小川で遊んでいたときに被爆。

やはた てるこ 八幡 照子	8歳の時、爆心地から2.5km離れた自宅から出掛けようとした時に裏庭で被爆。
やませ じゅんこ 山瀬 潤子	8歳の時、爆心地から2.2km離れた自宅で被爆。
やまもと さだお 山本 定男	中学校2年生であった14歳の時、爆心地から2.5km離れた東練兵場で、畑の草取り作業のため集合していたときに被爆。
やまもと れいこ 山本 玲子	小学1年生であった7歳の時、爆心地から4.1km離れた学校の校庭で、飛行機を見上げていたときに被爆。
わきます ともこ 脇舛 友子	3歳の時、母の実家がある安芸高田市から呉市の自宅へ車で戻る途中、原爆投下により車が止まり、母に背負われ、線路沿いに広島市内へ入った。

2 ヒロシマ・ピース・ボランティア事業

(1) 事業の概要

被爆体験を持たない市民も含め、市民参加による被爆体験の継承活動を推進していくため、平成11年度(1999年度)から広島平和記念資料館の展示解説(定点解説及び移動解説)及び平和記念公園内の慰霊碑等の移動解説を行うヒロシマ・ピース・ボランティア事業を実施しています。

令和7年3月31日現在、ヒロシマ・ピース・ボランティアの登録者数は187人です。

令和6年度は、平和記念公園内の移動解説を4,180団体23,127人に対し実施しました。また、資料館内は混雑のため、移動解説を休止しました。

(2) 活動内容・予約方法

ヒロシマ・ピース・ボランティアの活動時間は午前10時30分から午後3時30分までで、定点解説と移動解説があります。いずれも無料です。館内の混雑状況により一部変更となる場合があります。事前にお問い合わせください。

① 定点解説

資料館の展示の解説を行います。

② 移動解説

平和記念公園の慰霊碑等を一緒に歩きながら解説します。

※ 現在、資料館内の移動解説は休止しています。

ア 所要時間

平和記念公園：60分間～90分間程度

イ 人数

平和記念公園：1グループ10人まで

ウ 申込み

● 事前予約

解説希望日の1年前の当日から1週間前まで受け付けます。電話でお申し込みください。



平和記念公園内の慰霊碑を解説するヒロシマ・ピース・ボランティア

受付時間：午前 9 時～午後 5 時

[資料館の休館日（12 月 30 日及び 31 日ほか）は受け付けていません。]

● 当日受付

状況により異なりますので、以下へご確認ください。（混雑状況等により対応できない場合があります。）

〔事前予約申込・問合せ先〕

（公財）広島平和文化センター 平和文化企画課
受付専用電話（082）541 - 5544

3 被爆者証言ビデオの制作

被爆体験者の高齢化が進む中、被爆体験者の証言を映像に収め、被爆体験の継承に活用することを目的とし、昭和 61 年度（1986 年度）から被爆者の証言ビデオを制作してきました。

令和 6 年度は、3 人分の証言ビデオを制作しました。平成 7 年度（1995 年度）に制作した在韓被爆者の証言ビデオ、及び平成 17 年度（2005 年度）と平成 18 年度に制作した聴覚障害のある方の手話による証言ビデオを含め、総本数は 1,322 本になりました。



証言収録風景

（令和 7 年 3 月 31 日現在）

種 類	内 容	本 数
オリジナル版	カラー 約 20 分（約 20 分×1 人）、家庭用 VHS・DVD	1,151 本
ダイジェスト版	カラー 約 30 分（約 10 分×3 人）、家庭用 VHS・DVD	171 本

4 被爆体験証言者交流の集いの運営

広島で被爆体験の証言活動などを行っている団体間の情報交換と研修を目的として、昭和 62 年（1987 年）10 月 9 日に「被爆体験証言者交流の集い」（事務局一本財団）が発足しました。

（1）全体会議の実施

開催日 令和 7 年 3 月 13 日（木）

場 所 広島平和記念資料館東館地下 1 階 会議室（1）

主な内容 令和 6 年度被爆体験講話等実施状況報告、団体相互の情報交換等

(2) 構成団体一覧表 (15 団体)

令和 7 年 6 月 1 日現在

広島平和教育研究所	原爆被害者相談員の会
広島県原爆被爆教職員の会	平和のためのヒロシマ通訳者グループ
広島県高等学校原爆被爆教職員の会 (広島県高等学校退職教職員協議会)	広島医療生活協同組合原爆被害者の会
韓国原爆被害者対策特別委員会	広島県被爆二世団体連絡協議会
広島県朝鮮人被爆者協議会	広島被爆者援護会
広島県原爆被害者団体協議会 (被爆を語り継ぐ会)	被爆証言の会
広島県原爆被害者団体協議会	ヒロシマを語る会
	公益財団法人広島平和文化センター

5 平和文化センターインターンシップ事業

本財団は、平成 15 年度 (2003 年度) から、大学生等を実習生として受け入れるとともに、中・高等学校における総合的な学習の一環として職場体験学習を希望する学校の生徒の受入れにも積極的に協力しています。

こうした実習生や生徒に対し、広島平和記念資料館等で業務を経験してもらい、被爆地ヒロシマについて理解を深める機会を提供することは、次世代への被爆体験の継承及び平和意識の醸成に資することから、平成 20 年度 (2008 年度) からは「平和文化センターインターンシップ事業」として実施しています。

【事業の概要】

- ① 主な業務 平和の推進や国際交流・協力に関する業務、平和記念資料館での来館者対応 等
- ② 主な業務場所 平和記念資料館、広島国際会議場、原爆死没者追悼平和祈念館 ほか
- ③ 令和 6 年度のインターン受入れ実績

学校名	受入人数	受入期間	実習実施担当課
東原中学校	2	6/11~6/13	総務課、平和首長会議運営課、資料館啓発課、国際市民交流課
国泰寺中学校	2	7/4~7/5	総務課、国際市民交流課、国際会議場、追悼平和祈念館
井口中学校	2	7/17~7/19	総務課、施設課、資料館 学芸課
日本ダウン症協会	2	8/9 8/26~8/27	総務課
広島修道大学	2	8/2~8/29 (うち 5 日間)	総務課、平和市民連帯課、国際市民交流課、資料館 啓発課、追悼平和祈念館
古田中学校	2	1/21~1/23	総務課、国際市民交流課、資料館啓発課、国際会議場

6 ヒロシマ・ピースフォーラムの開催

市民に、「平和の原点」としての「ヒロシマ」を見つめ直し、原爆や平和について考え、どのように行動していけばよいかを探求する機会を提供するため、「ヒロシマ・ピースフォーラム」を開催しています。

令和6年度は、被爆の実相や暁部隊（陸軍船舶司令部）と宇品港、G7サミット後の国際情勢をテーマとした講義、被爆直後の広島を襲った枕崎台風に関する講義、広島から世界へ、平和の発信に関する講義、原爆の絵の制作を通じた被爆体験等、様々な視点から原爆や平和について考えていただく講座を実施しました。

期 間 【前期】令和6年5月～7月（土曜日、全3回）

【後期】令和6年10月～12月（土曜日、全3回）

場 所 広島平和記念資料館 ほか

対象者 18歳以上

受講者 【前期】 83人

【後期】 77人

7 国内原爆写真展用資料の普及・活用

昭和53年度（1978年度）から、ヒロシマ・ナガサキ原爆写真パネルを、また、昭和57年度（1982年度）から同ポスターを、無料で全国の学校・各種団体等に貸し出しています。

貸出件数は、16頁「12 原爆展・平和学習用資料の普及・活用」の「(1) 貸出件数」をご覧ください。

8 中・高校生ピースクラブの開催

原爆被害の実相を講義や実習を通して学び、平和への見識を高めることにより、平和推進の人材育成を図ることを目的として、平成14年度（2002年度）から、中・高校生を対象にした「中・高校生ピースクラブ」を開催しています。

令和6年度は中・高校生55人が参加し、資料館見学や碑めぐり、ヒロシマ青少年平和の集いの開催や、長崎県での研修及び青少年ピースボランティアとの交流会など、11回にわたり様々な活動に取り組みました。

参加者は1年間の活動を通して、「核兵器や戦争のない世界を実現すべく、私たち一人ひとりが平和を伝えていく」という思いを新たにしました。



ヒロシマ青少年平和の集いの様子

9 平和学習講座

被爆の実相や核兵器廃絶への取組などについての理解を深めてもらうとともに、身近なレベルで平和について考え、自ら平和に取り組む意識を醸成するため、学校等に講師を派遣し、平和学習講座を行っています。

この講座は、写真や市民が描いた原爆の絵、図表、イラスト、核実験の映像、模型等により原爆被害の実相や核兵器をめぐる世界の状況を説明するとともに、熱線で表面が泡状に溶けた瓦に実際に触れて原爆被害を理解していただくものです。

令和6年度は、91回（小学校52回、中学校17回、高等学校3回、その他19回）講座を実施しました。また、夏休み期間中には、事前予約不要かつ無料の講座も実施しました。



講座の様子

10 平和記念資料館平和学習ハンドブック等の作成

修学旅行生等が、平和記念資料館の見学を通して、より効果的に被爆の実相を学び、平和を目指す自主的な取組につなげることができるよう、「広島平和記念資料館平和学習ワークブック」等を作成し、配付しています。

【令和6年度作成部数】

広島平和記念資料館 平和学習ワークブック	小学生用	85,000部
	小学生指導者用	5,000部
	中・高校生用	10,000部
	中・高校生指導者用	10,000部
広島平和記念資料館 学習ハンドブック	小学校4～6年生用	115,000部
	中・高校生用	110,000部
平和記念公園めぐり		132,000部

11 国内原爆・平和展の開催

原爆被害の実相を伝え、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けた世論の醸成を図ることを目的として国内各地の都市で原爆・平和展を開催しています。

令和6年度は、東北2都市（秋田市、^{こおりやま}郡山市）において開催し、原爆で犠牲になった方の遺品等の被爆資料、被爆の実相と核兵器の現状を伝える写真パネル、高校生と被爆体験証言者が共同で描いた原爆の絵などを展示しました。また、展示の開催に併せ、本財団被爆体験証言者である^{かさおかさだえ}笠岡貞江さんを秋田市に、^{やはたてるこ}八幡照子さんを郡山市に派遣し、自身の被爆体験を語っていただきました。

実施の概要

【秋田市】

期間：7月13日（土）～8月1日（木）

（17日間）

場所：土崎^{つちさき}みなと歴史伝承館 企画展示室

来場者数：3,539人

【郡山市】

期間：7月18日（木）～7月31日（水）（12日間）

場所：けんしん郡山文化センター展示室

来場者数：2,452人



原爆・平和展会場の様子（郡山市）

1 2 原爆展・平和学習用資料の普及・活用

原爆展の開催や修学旅行の事前学習等の平和学習に活用できるポスターや、平和に関する各種ポスター、絵、映像資料（DVD）等を、全国各地の学校及び各種平和団体並びに自治体等に貸し出しています。

（1）貸出件数（令和6年度）

（単位：点）

貸出資料	点数
ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスター	90
ヒロシマ・ナガサキ原爆写真パネル	45
市民が描いた原爆の絵（複製）、各種ポスター、絵本セット等	400
DVD等映像資料	414
合計	949

（2）貸出方法

- ① 使用料は無料です。
- ② 運搬等（発送・返却）にかかる経費は使用者の負担となります。ただし、ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスター、同パネルについては、返却にかかる経費のみ使用者の負担となります。
- ③ 貸出希望日の1年前の同日から受け付けます。電話での申込を受付後、申込確認書を送付します。

〔申込・問合せ先〕

・申込み

資料貸出受付窓口（広島平和文化センター平和文化企画課内） TEL（082）541 - 5544

・内容等に関する問合せ

広島平和文化センター 平和学習課 TEL（082）242 - 8863

1 3 被爆体験伝承者による伝承講話の実施

広島平和記念資料館の来館者等を対象に、事前予約不要かつ無料で被爆体験伝承者及び家族伝承者による講話を定時開催しています。また、学校等からの依頼を受けて、市内の会場に無料で伝承者を派遣し、伝承講話を行っています。

(※) 被爆体験伝承者は平成 27 年度から、家族伝承者は令和 5 年度からそれぞれ活動を開始しました。

(1) 定時講話

① 実施状況（令和 6 年度）

() は家族伝承・内数

区 分	件 数	聴講者数
日本語での講話	1,071 件 (148 件)	11,728 人 (2,016 人)
英語での講話	358 件 (31 件)	5,430 人 (651 人)
計	1,429 件 (179 件)	17,158 人 (2,667 人)

② 日時・会場（通常時）

日 時 原則、休館日を除く毎日

10:00～11:00（日本語）、11:30～12:30（日本語）

13:00～14:00（英 語）、14:30～15:30（日本語）

※ 都合により、変更となる場合があります。

会 場 広島平和記念資料館東館地下 1 階 特別展示室

(2) 派遣講話（広島市内）

① 実施状況（令和 6 年度）

() は家族伝承・内数

区 分	件 数	聴講者数
日本語での講話	468 件 (38 件)	39,305 人 (2,592 人)
英語での講話	122 件 (17 件)	2,628 人 (541 人)
計	590 件 (55 件)	41,933 人 (3,133 人)

② その他

申込方法は、8 頁「1 修学旅行生への被爆体験講話等」の「(2) 申込方法」をご覧ください。

1 4 平和記念資料館収蔵資料の保存措置の強化

被爆から長い時間が経過している状況に対応するため、平成 28 年度（2016 年度）から広島平和記念資料館収蔵資料の保存措置の強化を行っています。

令和 6 年度は、前年度に引き続き、①被爆資料の収集・整理、②展示室及び収蔵庫の環境調査及び環境改善、③資料の劣化状況調査及び展示・収蔵方法の改善、④資料の保存措置とレプリカ作成、⑤映像のデジタル化、⑥学芸員の資料保存専門研修受講等を行いました。

また、資料館が所蔵する被爆直後に撮影された写真の原板について、日本写真保存センターを経由し、国立映画アーカイブ相模原分館のフィルム保管庫へ収蔵しました。

1 5 被爆資料の収集等の強化

(1) 被爆資料の収集の強化

被爆の実相を知り、原爆被害の詳細を明らかにする手段として、写真資料は重要な意味を持っています。原爆投下後の広島には占領軍として入った外国人が多数おり、彼らが任務として、あるいは駐留中に個人的に撮影した写真が、海外に未だ多数存在していると考えられています。広島平和記念資料館では、これまでも昭和 49 年（1974 年）に長崎市と共同で渡米調査を行った他、平成 25 年度（2013 年度）及び平成 28 年度（2016 年度）は米国、平成 29 年度（2017 年度）は米国・ニュージーランド、平成 31 年度（2019 年度）は英国・米国の資料所蔵機関等でそれぞれ資料の調査・収集を行いました。令和 2～4 年度は新型コロナウイルス感染状況を鑑み中止しましたが、令和 5 年度は英国の帝国戦争博物館及び国立海事博物館で所蔵資料の調査・収集を行いました。令和 6 年度はこれまで海外で調査・収集した被爆資料の精査を行い、国内での被爆資料の調査・収集を強化しました。

(2) 海外博物館とのネットワークの強化

スロベニアでの「ヒロシマ・ナガサキ原爆・平和展」の開催に合わせて、ドイツのダッハウ強制収容所記念館など開催地近辺の平和をテーマとした博物館等を訪問し、今後の連携の可能性について協議を行いました。

1 6 平和記念資料館ボランティアスタッフ活動支援事業

広島平和記念資料館の来館者に被爆の実相等を正確かつ効果的に伝えるため、資料館の各種事業に携わるボランティアスタッフ等の資質向上を図ることを目的に、体系的な研修を一元的かつ継続的に実施しました。

対 象 被爆体験証言者、ヒロシマ・ピース・ボランティア、平和学習講座講師、被爆体験伝承者など

内 容 総合研修（7回）、実技研修（3回）、語学研修（85回）

参加者 延べ 956 人

1 7 広島平和記念資料館の企画展の実施

広島平和記念資料館は数多くの被爆資料を収蔵し、それらを常設展示することによって、来館者に人類史上最初の原爆投下による被害の実相、核戦争の悲惨さを伝えています。常設展を補完し、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を希求する「ヒロシマの願い」への理解をさらに深めてもらうため、平成 6 年度（1994 年度）から企画展を開催しています。実績は次のとおりです。

令和6年度までの企画展開催実績

年度	タイトル	期 間
平成 6	開館記念収蔵資料展 ―平和の回廊―	6/1～6/30 30日間
	写真展 ―あのととき広島は―	3/1～4/20 51日間
7	被爆50周年資料館開館40周年記念 ―ヒロシマの軌跡―	7/15～8/27 44日間
	原爆ドーム世界遺産化展 ―(ユネスコへの登録申請時)―	10/1～10/13 13日間
8	収蔵資料展 ―あの日、そして灼けついた記憶―	7/20～9/1 44日間
	原爆ドーム世界遺産化展 ―(ユネスコへの登録決定時)―	1/29～2/28 31日間
9	きのご雲の下に子どもたちがいた ―おじいちゃん、おばあちゃんに聞く戦争のころのはなし―	7/19～8/31 44日間
	公園の下に眠る街、爆心地・中島地区	11/1～11/30 30日間
10	子どもたちの戦場 ―集団疎開、おとうさんおかあさんと離れて―	7/17～9/30 76日間
	銃後を支える力となって ―女性と戦争―	2/1～4/30 89日間
11	広島平和記念都市建設法制定50周年記念 焼け跡に響く子どもたちの声 ―焦土から平和都市へ―	7/7～9/30 86日間
	メリーランド大学所蔵「プランゲ文庫」展 活字から見る占領下の日本 ―プレスコードと広島―	8/2～8/31 30日間
	ヒロシマを切り撮った眼	3/1～7/9 131日間
12	質問でつづるふしぎ発見 原爆 ―見えない放射線の被害―	7/19～10/16 90日間
	よみがえる歴史の記憶 ―一瞬に消え去った爆心の町―	3/16～7/9 116日間
13	2000年・2001年記念事業 サダコと折り鶴 ―一時を超えた生命の伝言―	7/19～12/16 151日間
	終戦後の子供のくらし ―メリーランド大学所蔵プランゲ文庫 「村上寿世記念児童コレクション」に探る―	9/1～9/28 28日間
	ヒロシマの証言 ―奪われた街・残されたもの―	3/1～7/10 132日間
14	焼け野原に人々を助けて ―薬も食べ物もない中で続けられた救 援活動―	7/18～12/1 137日間
	原爆の絵 ―市民の手によるヒロシマの記録―	3/5～7/6 124日間
15	原子爆弾ナリト認む ―原爆投下後に行われた被爆調査の軌跡を追う―	7/25～12/15 143日間
	似島が伝える原爆被害 ―犠牲者たちの眠った島―	3/3～7/11 131日間
16	動員学徒 ―失われた子どもたちの明日―	7/16～12/15 153日間
	第三の被爆・第五福竜丸とヒロシマ	2/15～6/30 136日間
17	被爆60周年資料館開館50周年記念 廃墟の中に立ちあがる ―平和記念資料館とヒロシマの歩み―	7/11～12/18 161日間
	宮武甫・松本榮一写真展 ―被爆直後のヒロシマを撮る―	3/15～9/28 198日間
18	託された過去と未来 ―被爆資料・遺影・体験記全国募集 新着資料より―	7/20～7/10 356日間
	林重男写真展	2/15～7/17 165日間

19	海外からの支援 —被爆者への援助と込められた再建への願い—	7/25～10/31	99 日間
	菊池俊吉写真展 —昭和 20 年秋・昭和 22 年夏—	2/14～7/15	153 日間
20	被爆建造物は語る	7/24～12/15	145 日間
	廃虚にフィルムを回す —原爆被災記録映画の軌跡—	2/25～7/15	141 日間
21	広島平和記念都市建設法制定 60 周年記念 佐々木雄一郎写真展 第一部 平和を築く	7/18～12/15	151 日間
	広島平和記念都市建設法制定 60 周年記念 佐々木雄一郎写真展 第二部 平和を誓う	2/3～7/12	160 日間
22	広島平和記念資料館・国立広島原爆死没者追悼平和祈念館共同企画展 国民義勇隊 —原爆被害を大きくした広島市の建物疎開—	7/16～12/15	153 日間
	こどもたちの見た戦争 —はだしのゲンとともに—	2/4～7/11	158 日間
23	生きる —1945.8.6 その日からの私—	7/15～12/14	153 日間
	広島、1945 —写真が伝える原爆被害—	2/3～7/9	158 日間
24	基町 —姿を変える広島開基の地—	7/13～12/12	153 日間
	君を想う —あのときピカがなかったら—	2/8～7/15	158 日間
25	はだしのゲン原画展 —生きて生きて生きぬいて—	7/19～9/1	45 日間
31	市民が描いた原爆の絵—記憶と向き合う—	4/25～12/26	245 日間
令和 1	海外収集資料から見る広島原爆被害と復興	12/27～2/28 6/1～7/20 (2/29～5/31 は臨時休館)	計 112 日間
2	被爆 75 年企画展 広島平和記念資料館のあゆみ 第一部 礎を築く—初代館長 長 岡省吾の足跡	7/22～2/23 (12/14～2/7 は臨時休館)	計 161 日間
	被爆 75 年企画展 広島平和記念資料館のあゆみ 第二部 8 月 6 日へのまなざし— 資料を守り伝え続ける	2/27～7/18 (5/10～6/20 は臨時休館)	計 100 日間
3	焼け跡もの語り	9/17～2/13 (9/17～30、 1/13～2/13 は 臨時休館)	計 102 日間
	原爆と医療—救護活動から医学調査へ—	3/25～9/12	172 日間
4	爆心直下の町—細工町・猿楽町	9/16～3/21	計 185 日間
	広島戦災児育成所—子どもたちと山下義信—	3/24～9/11 (5/19～5/21 は臨時休館)	計 169 日間
5	新着資料展—令和 3 年度寄贈資料	9/14～2/27	計 165 日間

	ともだちの記憶	3/1～9/10 (予定)	計 194日間 (予定)
6	新着資料展—令和4年度寄贈資料	9/13～2/25	計 166日間
	ユネスコ「世界の記憶」登録候補 広島原爆の視覚的資料—1945年の写真と映像	2/28～9/16 (予定)	計 201日間 (予定)

※再整備事業による改修工事のため、平成25年(2013年)9月から平成31年の全館オープンまで企画展は休止しました。

○ 令和6年度第1回企画展「新着資料展—令和4年度寄贈資料」

広島平和記念資料館には毎年、被爆者や遺族の方々などから被爆に関連した資料が寄贈されています。寄贈された資料は被爆前後の人や街の様子を浮かび上がらせます。この展示会では、令和4年度(2022年度)に寄贈された955点の資料の中から、134点を紹介しました。展示の初めに今もなお描き続けられる「原爆の絵」を通じて被爆者の思いに触れ、その後、被爆前から被爆後の様子を伝える資料を基に当時の状況を振り返りました。



救護活動に従事した軍人の水筒
あらいよしお
(新井好雄寄贈)



展示の様子

期 間 令和6年9月13日(金)～令和7年2月25日(火)

場 所 広島平和記念資料館東館1階 企画展示室

内 容 現物資料、原爆の絵、写真パネル、映像など約170点

○ 令和6年度第2回企画展「ユネスコ『世界の記憶』登録候補 広島原爆の視覚的資料—1945年の写真と映像」

昭和20年(1945年)8月6日の広島への原爆投下直後から同年12月末までに撮影された写真・映像は、原爆投下で壊滅した街の様子、重度の火傷や放射線による急性障害で苦しむ市民の姿を記録しており、原爆の被害を克明に伝えるものです。

令和5年(2023年)9月、これらの資料を所蔵する広島市、中国新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、中国放送、日本放送協会の6者は、「広島原爆の視覚的資料—1945年の写真と映像」として、ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)「世界の記憶」への登録を目指し、

共同で申請しました。

展示会では、申請された写真と映像の一部を撮影者ごとに紹介するとともに、資料館所蔵資料のほか共同申請者が所蔵する関連資料を展示しています。「世界の記憶」登録に対する関心を高めるとともに、原爆投下による惨状に向き合い、その光景をカメラに収めた撮影者の心情に触れ、これらの資料を保存し後世に伝えることの大切さと核兵器廃絶の重要性を実感していただく機会となりました。



陸軍船舶練習部から撮影したきのこ雲

きむらごんいち

木村権一撮影 1945年(昭和20年)8月6日

爆心地から4,000m 宇品町
うしなまち



展示の様子

期 間 令和7年2月28日(金)～9月16日(火)
場 所 広島平和記念資料館東館1階 企画展示室
内 容 写真パネル、映像、現物資料など約150点

18 ユース・ピース・ボランティア事業

次代を担う青少年自らが平和の大切さを学び、ヒロシマの心を国内外に伝える機会を創出するため、平和記念公園を訪れる外国人に対して被爆の実相を英語で伝えるボランティアガイドを育成し、その活動を支援しています。

令和6年度は、133人(高校生93人、大学生40人)がユース・ピース・ボランティアとして登録し、国連主催の研修参加者や各国政府代表者、平和記念公園を訪れる外国人観光客へのガイド活動などを実施しました。



ユース・ピース・ボランティアのガイド活動の様子

【活動実績】

- ① 国連主催の研修参加者、各国政府代表者へのガイド：3回
- ② 平和記念公園を訪れる外国人観光客へのガイド：11回
- ③ 被爆の実相や異文化理解に関する講義等の事前研修：3回

19 若者によるヒロシマの発信【新規】

若者が主体的に被爆の実相を発信できるよう、研修の実施や資料の貸与等による支援を行いました。

対象者 主として広島で学生生活を送る大学生

研修等 10回

参加者 112人

20 平和・戦争に関する博物館等とのネットワーク

第31回日本平和博物館会議（加盟館：10館）に参加し、平和博物館の課題についての協議や情報交換を行いました。

期 間 令和6年11月7日（木）～8日（金）

開催地 かわさき川崎市平和館

21 展示・収蔵資料等の調査研究

平成10年度（1998年度）に発足した有識者で構成する「広島平和記念資料館資料調査研究会」（会員名簿は下に掲載）によって、原爆・平和などに関わる各分野の資料の調査・収集、学術的考証・分析などの調査研究が進められ、その成果は、資料館の常設展示や企画展などに反映されています（調査研究体制見直しのため、令和7年4月1日から一時休会）。

会 員 名 簿

令和7年3月末現在

区分	氏名	対象分野	現職
会員	みずもと かずみ 水本 和実	国際関係論（核軍縮、安全保障等）	広島市立大学名誉教授
副会長	まつだ ひろし 松田 弘	近現代美術史	東広島市立美術館館長
監事	くぼた あきこ 久保田 明子	アーカイブズ学研究	広島大学原爆放射線医科学研究所助教
監事	しじょう ちえ 四條 知恵	歴史学	広島市立大学広島平和研究所准教授
会員	かみや けんじ 神谷 研二	医学（放射線生物学）	公益財団法人放射線影響研究所理事長
会員	こうづま ようせい 高妻 洋成	保存科学（有機質材料）	独立行政法人国立文化財機構 文化財防災センター長
会員	さど のりこ 佐渡 紀子	国際政治（国際安全保障）	広島修道大学国際コミュニティ学部教授
会員	たかはし ひろこ 高橋 博子	アメリカ史（核兵器関連資料調査）	奈良大学文学部 教授
会員	たけさき よしひこ 竹崎 嘉彦	地理（地図・航空写真）	中国書店

会員	ねもと まさや 根本 雅也	社会学	一橋大学大学院社会学研究科専任講師
会員	よしだ ゆきひろ 吉田 幸弘	プロダクトデザイン、空間デザイン	広島市立大学芸術学部教授
名誉会員	いしまる のりおき 石丸 紀興	建築学(建築計画、都市計画・形成史等)	(株)広島諸事・地域再生研究所代表

令和6年度の研究テーマ

平和博物館における文書資料アーカイブズと他機関所蔵関連資料との連関に関する研究：広島平和記念資料館所蔵「相原秀二資料」のデジタル化について
資料の吸放湿特性ならびに光触媒による有機酸等の除去に関する予備実験
2018年～2020年の核をめぐる動向と論調～トランプ政権の核政策を中心に

○ 広島平和記念資料館資料調査研究会研究報告の発行

令和7年3月1日、広島平和記念資料館資料調査研究会研究報告第20号を発行し、ホームページにも掲載しました。

本号で研究報告の発行が第20号の節目を迎えたことから、本号には令和5年度の研究成果のほか、資料調査研究会の発足からこれまでの活動記録を掲載しました。また併せて、これまでの研究会の成果や課題などをテーマに会内外の関係者が執筆した「研究報告第20号記念特別寄稿」も掲載しました。



研究報告のダウンロードはこちら

【会員による研究報告】

- ・水本和実

「米国トランプ政権の誕生と核兵器禁止条約の成立 2017年の核をめぐる動向と論調」

【特別寄稿】

- ・島充しまみつる

「写真記録から読み取る広島城天守の崩壊状況」

【研究報告第20号記念特別寄稿】

- ・高妻洋成

「広島平和記念資料館における資料の保存と活用」

- ・根本雅也

「ひらかれた研究の場をめざして—広島平和記念資料館における調査研究のあり方を考える—」

- ・水本和実

「資料調査研究会に期待される役割とは」

- ・遠藤 暁えんどうあかつき・静岡 清しずまきよし

「仁科芳雄土壌と八島家黒い雨壁の測定」

おおいけんじ
・大井健次

「広島平和記念資料館資料調査研究会と広島平和記念資料館の大規模リニューアルについて—『展示デザイン、美術・芸術』の視点から—」

たかのかずひこ
・高野和彦

「広島平和記念資料館資料調査研究会設立当初を振り返る～初期の研究活動から～」

○ 広島平和記念資料館資料調査研究会会員の研究発表会の開催

令和7年3月8日(土)、広島平和記念資料館会議室1において、資料調査研究会の研究発表会を開催しました。このたびは被爆直後に撮影された原爆被災記録フィルムについて、本研究会の久保田明子会員、平和記念資料館学芸課の落葉裕信学芸係長、広島市映像文化ライブラリーの森宗厚子映像文化専門官の3名がそれぞれの切り口から研究発表を行いました。映像がテーマということで関心を集め、これまでの研究発表会の中で最も多い約140名の市民が参加しました。



研究発表会当日の様子

2.2 次世代と描く「原爆の絵」

平成16年度(2004年度)から「原爆の絵」の制作に取り組んでいます。「原爆の絵」は、被爆体験証言者が修学旅行生等への被爆体験講話の際などに活用し、視覚によって体験内容の理解を深めてもらうことに役立てるとともに、被爆当時の広島の様状を描いた絵画として、原爆被害の実相を後世に伝えるための貴重な資料となります。さらに、絵の制作を通して、若い世代の人たちが被爆体験証言者の思いに触れることにより、平和意識の高揚を図り、次世代に被爆体験を継承していくことにつながります。

令和6年度は、広島市立基町高等学校普通科創造表現コースの生徒15人が、6人の被爆体験証言者ととも、「原爆の絵」の制作に取り組み、令和7年6月に、15点の作品が完成しました。

これで、「原爆の絵」は合計244点となりました。